

きゅうりの新しい台木“輝虎”の特性について

1. 試験のねらい

最近、ブルームレスのキュウリが高価格で取り引きされているが、生産上ブルームレス台木を使用した場合に従来の台木よりも1～2割程度減収になるという点が問題になっている。そこで、ブルームレス台木の特性を調査し、減収にならない栽培方法の検討を行った。

2. 試験方法

- (1) 半促成、早熟トンネル、抑制の各作型で他台木品種との比較を行った。(昭和60～61年)
- (2) 施肥量・夜温の相違が、生育・収量及び品質に与える影響について比較検討した。(昭和61年)
- (3) 整枝法の違いが収量及び品質に与える影響について検討した。(昭和62年)

3. 試験結果及び考察

- (1) 作型別の台木品種比較の結果を表-1に示した。半促成栽培では、輝虎は他台木に比較して収量でやや劣り、果色も淡かった。早熟トンネル栽培では、収量は他の台木と比較しても問題がなく、果色も良好であった。抑制栽培では果色については他の台木と比較して問題がなかったが、収量ではやや劣った。また、ブルームについてはどの作型でも輝虎を使った場合はほとんど発生しなかった。以上により、輝虎は早熟トンネル栽培にもっとも適応すると考えられた。
- (2) 輝虎の栽培管理特性について とくに夜温と施肥量の違いが収量及び品質に与える影響を検討するため、最低夜温を10℃と13℃、施肥量を標準(基肥として三要素とも2kg/a、追肥として1回当り0.1kg/a)と倍量(すべて標準の二倍量)に設定して試験を行った。その結果、図-1に示したように、最低夜温13℃の方が輝虎、王金ウルトラ台木両方とも収量が多く、施肥量の違いではほとんど収量に差はなかった。以上のことより、輝虎は従来の台木と同様な管理が望ましいと判断できた。
- (3) 輝虎台使用時の増収対策の一つとして放任枝利用について検討した。主枝の10節を境に上位下位に分け、放任枝の発生位置を区分し、最低夜温は13℃、施肥量は(2)の標準施肥と同様にした。また、放任枝はネット誘引を行った。その結果は、図-2に示したように、総収量はどの台木も下位放任、放任区で慣行整枝区より大幅に上まわった。また、上物収量が増加し、上物率がかなり高くなった。とくに輝虎では、下位放任区の上物収量は慣行区の2倍となり、他の台木より多かった。以上のことより、輝虎台を使った場合、下位枝の放任により増収となり、上物収量も増加することが判明した。

4. 成果の要約

ブルームレス台木“輝虎”は、早熟トンネル栽培で有望であり、管理については、従来の台木と同様に行って良く、また、増収対策として放任枝利用が有効と考えられた。

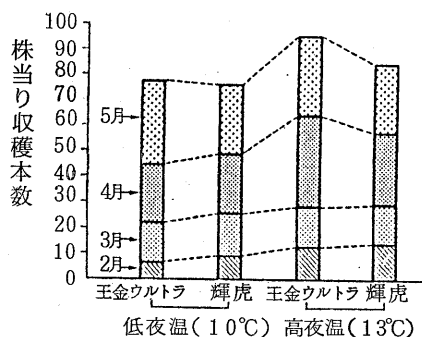
(担当者 野菜部 本島俊明)

表-1 作型別台木品種比較試験結果(1985~1986)

作型	品種名	播種月日	収穫始月日	草丈 cm	主枝果 率 %	総収量 本/a	上物率 %	果色 程度	ブルーム 程度	穂木 品種
半促成	輝虎	12. 7	2. 17	104.3	29.6	11,891	78.6	2.8	1.0	王金 女神 2号
	クロダネ	12. 7	2. 15	119.5	26.9	13,759	79.3	3.7	3.7	
	新土佐	12. 7	2. 13	101.5	28.5	12,032	77.6	3.7	3.3	
	自根	12. 7	2. 17	93.7	34.6	10,714	82.1	4.0	3.3	
ト早 ン熟 ネル	輝虎	3. 22	6. 9	87.5	16.3	8,201	69.1	4.0	1.0	夏秋 の光
	クロダネ	3. 22	6. 3	90.8	25.4	7,982	61.2	4.0	4.0	
	新土佐	3. 22	6. 9	90.2	19.8	8,359	61.5	4.0	4.0	
	自根	3. 22	5. 10	86.8	28.5	7,379	59.3	4.0	3.5	
抑 制	輝虎	7. 21	9. 17	95.3	40.2	2,392	85.3	3.7	1.0	貴婦 人 ニュー タイプ
	クロダネ	7. 21	9. 15	113.3	33.3	3,058	91.0	4.0	3.5	
	新土佐	7. 21	9. 15	107.6	22.7	3,484	88.4	3.5	3.5	
	自根	7. 21	9. 8	162.4	22.6	3,127	91.2	4.0	3.0	

- 注1. 果色 淡1~濃5, ブルーム 少1~多5
 2. 草丈は定植1カ月後に調査
 3. 半促成は5月23日まで, 早熟は7月30日, 抑制は10月23日まで調査した。

(a) 最低管理夜温と収量(1987)



(b) 施肥量と収量(1987)

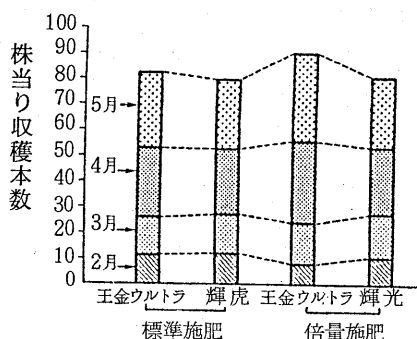


図-1 夜温・施肥量の違いが収量に及ぼす影響

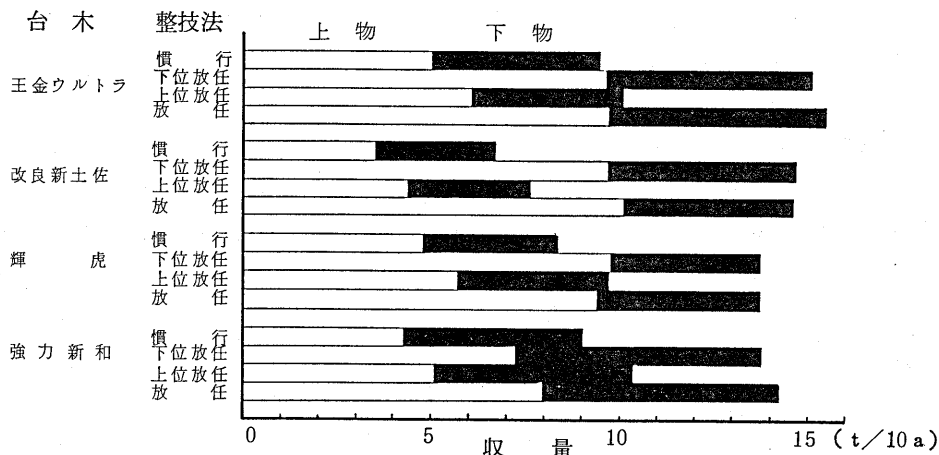


図-2 台木品種と整技法が収量に及ぼす影響(1987~1988)